

※今月のみ受注の書目です。

哲学ご担当者さま

ベンサム「公開性」の法哲学

(2023年2月中旬刊行予定)

ジェラルド・ポステマ(ノースカロライナ大学チャペルヒル校哲学科名誉教授)[著] /

戒能通弘(同志社大学法学部教授)[訳]

A5判上製 / 536頁 税込予価 8,800円 ISBN978-4-7664-2873-5 C3010

👉 ココに注目!

- ・ベンサム研究の大家、ジェラルド・ポステマによるベンサム研究の到達点を示す集大成。
- ・「公開性・Publicity」によって、ベンサムの思想全体を一貫したものとして捉える「哲学的ベンサム」を探求する研究として最高水準の書。

功利主義の代表的論者として知られるジェレミー・ベンサム。監視社会の象徴として捉えるフォーコーや、「最大多数の最大幸福」の下、少数者の基本的権利を侵害するとしたロールズなど、批判者を通じたベンサム理解が一般的であった。しかし近年、ベンサムの草稿に光が当たったことから、そうした極端なレッテル貼りを脱却し再評価するベンサム・リヴィジョニズムが注目されている。その流れの完成形の研究として、「公開性」という視点からベンサムの思想全体を再構成する試み。

対象 哲学(特に功利主義)、法哲学の研究者、院生

類書 堅田剛『法の哲学—ヘーゲルとその時代』(御茶の水書房)

【著者紹介】

【著者】 ジェラルド・ポステマ (Gerald Postema)

1948年シカゴ生まれ。ノースカロライナ大学チャペルヒル校哲学科名誉教授。専門は法学、法哲学。著作に *Bentham and the Common Law Tradition*, Clarendon Law Series, Oxford: Clarendon Press, 1986. *Jeremy Bentham: Moral, Political, and Legal Philosophy*, editor, Aldershot, England: Dartmouth Publishing Company, 2002. 他多数。

【訳者】 戒能通弘 (かいのうみちひろ)

1970年生まれ。ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス法学修士課程修了。博士(法学・同志社大学)。現在、同志社大学法学部教授。専門は法思想史。著書に、『世界の立法者、ベンサム』(日本評論社、2007年)、『近代英米法思想の展開』(ミネルヴァ書房、2013年)などがある。

👉 **主要目次、注文書 & 関連既刊を裏面に掲載! ぜひご確認ください!**

【主要目次】

日本語版への序文
序文
謝辞
凡例
略記一覧

第一部 ベンサムの理論的基礎

- 第一章 意味、分析と説明—思考の技術
- 第二章 心理学—個人と社会
- 第三章 規範理論—功利性の原理
- 第四章 公開性とベンサムの価値の理論の進展
- 第五章 ベンサムの平等に感応的な価値の理論
- 第六章 普遍的利益と特殊な利益

第二部 ベンサムの法理学

- 第七章 功利性、公的なルールとコモン・ローの司法的判断
- 第八章 功利性と命令—ベンサムの普遍的法理学の根源
- 第九章 事実、フィクションと法—証拠法の基礎
- 第一〇章 「フランスのナンセンス」の擁護—憲法学における基本的権利
- 第一一章 功利主義的国際秩序
- 第一二章 正義の魂—ベンサムと公開性、法と法の支配
- 第一三章 ベンサム—公開性の理論家

訳者解説(戒能通弘)



ご注文は FAX で! 03-3451-3124



番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	税込予価	部数
新刊委託		ジェラルド・ポステマ著／戒能通弘訳	8,800 円	★★
		ベンサム「公開性」の法哲学 ISBN978-4-7664-2873-5 C3010		

関連既刊(ぜひ併せてご注文ください!)

ベンサムの法思想に焦点を当てる本書『ベンサム「公開性」の法哲学』。それに対し、当社で2020年に刊行した『功利とデモクラシー』の著者であるフィリップ・スコフィールドは、ベンサムの政治思想に着目した歴史的アプローチをとっています。両者のアプローチに違いはありますが、ともにベンサム研究の到達点となる2冊です。ベンサムの思想を包括的に再評価するための手引となるかと思しますので、ぜひ併売をご検討ください!

返品条件付注文品	番線	ご注文部数	発行所：慶應義塾大学出版会	定価(税込)
			フィリップ・スコフィールド 著／川名雄一郎・高島和哉・戒能通弘 訳	16,500 円
			功利とデモクラシー —ジェレミー・ベンサムの政治思想 ISBN978-4-7664-2642-7 C3010	

★1つで「500部」を表します